

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Characteristics of suicide attempts preceded by alcohol consumption. アルコール消費後の自殺企図者の性格	
執筆者	
Lejoyeux M, Huet F, Claudon M, Fichelle A, Casalino E, Lequen V.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Suicide Res. 2008;12(1):30-8.	
キーワード	
アルコール依存症、抑うつ、救急サービス、自殺企図	
要 旨	
<p>目的： 急性アルコール摂取やアルコール依存は抑うつ状態にない患者での自殺企図のリスクを上昇させることが知られている。アルコールと自殺のリスクについては明らかにする必要がある。</p> <p>方法： この目的のために自殺企図者の直近のアルコール摂取状況を検討し、アルコール飲用者と非飲用者で比較した。自殺企図後にフランスの一般病院の救急サービスに搬送された 160 名の患者を対象に調査した。心理的因子は DSM-IV によって分類した。患者は抑うつ、アルコール問題飲酒 (MAST) であるか評価された。</p> <p>結果： 直近のアルコール飲用者は 40%であった。アルコール飲用者は非飲用者に比べて年齢が高かった(40 歳 versus 34.8 歳、$p=0.03$)。アルコール乱用者はアルコール摂取後の自殺企図が高かった(43% versus 12%)。アルコール依存症はアルコール飲用者でより多くみられた(43% versus 9%)。アルコール飲用者では普段の飲酒量が多く(6.1drinks versus 1.3drinks)、回数も多かった(3.6 日/週 versus 1.4 日/週)。さらに酔っぱらうことも多く(0.9 回/週、versus 0.3 回/週)、一人で(41% versus 12%、$P<0.005$)朝に飲む(21% versus 3%)傾向があった。さらにミシガンアルコールスクリーニングテストで高得点であった(14.8 versus 2.9)。薬物依存の割合はアルコール飲酒者で高かった(21% versus 3%)。</p> <p>結論： 自殺企図者には最近のアルコール飲用について尋ねる必要がある。このアルコール摂取はしばしばアルコール乱用や依存症の一症状として現れる。</p>	